

学部プロジェクト研究

## 現代型環境変化と地域における生活文化の変容に関する研究

### その 1 研究概要と住生活アンケート結果

#### The Modern Environmental Changes and the Life and Culture Transformation in Northern Tohoku Region, Japan

#### Part 1. Outline and Purpose of Research

佐々木隆<sup>\*1</sup>、千葉俊之<sup>\*2</sup>、原英子<sup>\*3</sup>、本間義規<sup>\*1</sup>、川崎雅志<sup>\*2</sup>、大里怜子<sup>\*2</sup>

Takashi SASAKI, Toshiyuki CHIBA, Eiko KUSABA Hara,  
Yoshinori HONMA, Masashi KAWASAKI and Reiko OSATO

Authors executed the investigations about the change of life and culture similar to the investigations executed 50 years ago in four regions of Iwate Prefecture where agriculture, forestry, a new residential area, and fishery were assumed to be typical industry. The purpose of this study is to compare the transformation of life culture that changes in the modern environmental change in four regions. In the house, it is a substantial change that the lavatory and the bathroom that had existed in outdoor 50 years ago were set up to indoors. However, the research zone is a cold region in Japan, and the correspondence in winter to the cold is insufficient, we found a house where the bedroom and the lavatory still become under the freezing point. As for this fact, it was guessed to be an associated problem between food, clothing, and housing in the north-Tohoku provinces where the apoplexy attack rate became a top of Japan. Heating of winter in a progressive-aged society in Japan of the future and the problem of the energy consumption in the house to global warming are expected to continue, and the development of the reform technique of a current house will be very important theme as a concrete problem.

**Keywords:** *Environmental Change, Questionnaire, Statistical Analysis, Hygrothermal Measurement*  
環境変容, アンケート調査, 統計分析, 温湿度測定

### 1. 概要

本研究は、岩手県内の地域的な特徴のある 4 地域において、50 年前に実施した調査と現在の生活に関する調査を実施し、環境の変化が生活に対してどのような変化を与えたかの実態比較をすることを目的としている。住宅では 50 年前には室外にあった便所や浴室が室内に設置されたのが大きな変化である。しかしながら、調査対象地域は日本国内の寒地であるにもかかわらず、冬の寒さへの対応が不十分で、現在でも寝室や便所が氷点下になる住宅も未だ多いことがわかった。この事実は脳卒中の発症率が日本一となる北東北地方では、衣食住相互に関連する問題であることが推測された。今後の日本における超高齢社会における冬季の暖房と地球温暖化に対する住宅におけるエネルギー消費の課題は継続することが予想され、現状の住宅のリフォーム手法の開発などが具体的な課題として主張している。

### 2. はじめに

本報告(その 1)では 全体の研究の目的と概要について記述する。

旧岩手県立盛岡短期大学では昭和 34 年から 38 年にかけて生活調査を県内 4 地域で実施した。その報告書は生活調査報告第 1 号(岩手県岩手郡西根村中村部落)として、昭和 34 年 12 月に刊行された。次いで、第 2

号(岩手県岩手郡玉山村洪民船田部落)として昭和 36 年 2 月に、第 3 号(岩手県下閉伊郡川井村小国地区)として昭和 36 年 12 月に、第 4 号(岩手県久慈市小袖部落)として昭和 38 年 1 月に、それぞれ刊行された。それらの報告書には地域の成り立ちからはじまり自然条件、社会条件、経済条件、家族構成と家計費、衣生活の実態調査、栄養・食糧調査、住生活の実態調査、育児に関する調査、保健衛生に関する調査、生活意識の調査など、が詳細に記され、きわめて多岐にわたる内容であるが、今回の調査では 50 年前の生活実態・内容が、現代ではどのように変化したのか、などを調査比較する方針とした。もとより、50 年以前の生活で常識的であったものが失われたり、価値を持たずに変化したものは数多いと考えられるが、あくまで現在の生活状況からの判断しかできないのでそのすべての比較は行っていない。

なお、研究は 3 年間の期間で実施し、それぞれの分野の専門家が研究に当たった。今回の研究紀要への報告は、調査研究内容の一部であることを付言しておく。

### 3. 調査対象地域の概要

調査は以下の 4 つの地域で 50 年前と同様に実施した。

・(1) 岩手県西根村(現在の八幡平地区、以後、西根地区と記す)

\*1 生活科学科生活科学専攻 \*2 生活科学科食物栄養学専攻 \*3 国際文化学科

- ・ (2) 玉山村渋民地区(現在の玉山山下田地区、以後、渋民地区と記す)
- ・ (3) 下閉伊郡川合村小国地区 (以後、川井地区と記す)
- ・ (4) 久慈市小袖地区(現在の久慈市の宇部町、以後、久慈地区と記す)

調査地域の地図上の所在地概要を図1に示す。

調査方法は、第一段階として無作為アンケートを実施した。アンケートの内容は、過去の調査項目と同様の項目質問をできるだけ設定して、地域の自治会や50年前に地区を管理した漁業協同組合協会を通して住民に対してアンケート票を配布する形式を取った。

対象地域の特色は地理的な特徴、主要な産業などで大別される。

西根地区の94%は田畑であり、気候は、県の都市部である盛岡地域とは異なって、北上山脈と奥羽山脈によって囲まれた内陸盆地である。

渋民地区はほとんどが平地であり、農業中心の地域であるが、50年前は新興住宅地であった。気候は盛岡地域と同様であるが、気温は少し低い。

川井地区の約90%は山間部で就業人口の70%は、農林業と、狩猟が盛んな地域である。気候は盛岡地域とそれほど変わらず、温度は少し低い。

久慈地区はリアス式海岸に面しており、上村と下村の2つの村に分割されている。冬季は湿気が高く、夏季は盛岡地域より少し暖かい。

#### 4. アンケート調査の内容

アンケートの内容は50年前の内容に合致させることを努めたが、以前には存在していたものの、現在では消滅し比較ができないものについては省略した。質問項目の概要は次のとおり。

- A: 回答者の家族を含めた属性など
- B: 住宅の現状、改修の必要性、満足度など
- C: 冬季の生活の仕方、暖房方法など
- D: 衣服の現状
- E: 食生活全般、食事の内容、食品購入など
- F: 健康・衛生面など
- G: 信仰の現状
- H: 年中行事
- I: 農林畜産業従事者への質問
- J: インターネット利用

アンケートは西根、渋民地区が2009年2月から3月、川井、久慈地区が2009年6月にそれぞれ個人が特定されないように配慮して実施した。配布方法として、西根、渋民地区は地域の自治会、川井地区は地域の健康ヘルパー、久慈地区は漁業組合を通じて実施した。内容は地域ごとに若干内容が異なるが、巻末に川井地区で実施したものを示す。

各地域でのアンケート票配布数、回収数をつぎに示す。



図1 調査対象地域

	渋民	西根	川井	久慈
配布数	426	110	227	188
回収数	231	73	103	156
回収率	54.2	66.4	45.4	83.0

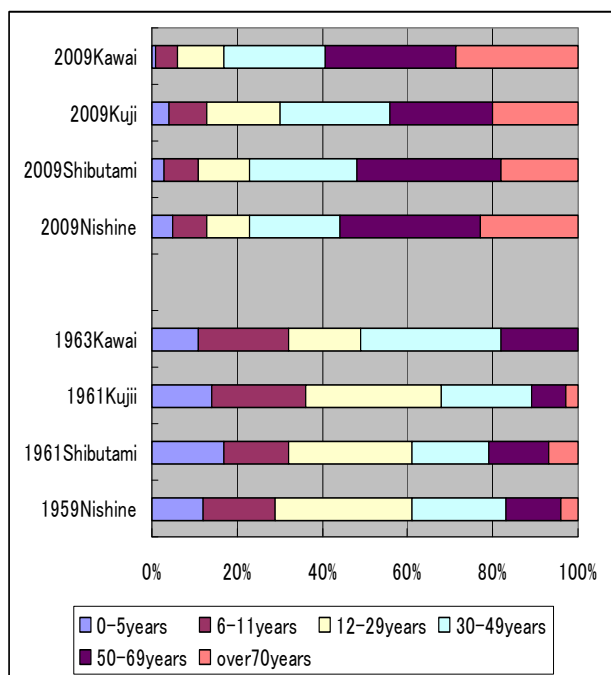


図2 対象地域の50年前と現在の年齢構成

地区により、回収率にばらつきが見られるが、配布方法や地区の歴史特性もあることから、回収率に関する分析は別稿に譲りたい。

### 5. 住宅に関するアンケート結果

本報告（その1）では、主に住生活に関する調査結果の一部に関して述べていきたい。

50年間という時間経過は、住宅や住まい方そのものに大きな影響を及ぼす。

とりわけ、建築材料の変化、家族数・構成の変化、核家族化など変化をもたらす要因は多い。そのうちで50年前と現在の家族構成を比較したものが図2である。0歳から5歳まで、6から11歳まで、12から29歳まで、30歳から49歳まで、50歳から69歳までと70歳以上に分類したものであるが、50年前は4地域とも各年代がバランスよく分布しているのに対し、現在（2009年）では70歳以上の人口が増加し、明らかに少子高齢化の実情を示している。特に、川井地区、西根地区では50歳以上の年齢者が6割に近いなど高齢化の実態が目立つ結果となった。

### 6. 各地域における住宅の50年間の大きな変化

住居に関する大きな関心事は長い年月による住宅自体の老朽化の問題である。住宅の補修は一家の主に課せられた重要な課題であるが、50年の時間が経過し、建築材料や建築方法の変遷も考慮する必要がある。

図3は住宅の壊れ度合いに対する意見である。地区によりかなり異なる状況であるが壊れている箇所のない「満足」は少なく、「やや満足」と回答した住宅に関しては、最低限の補修などが実施されている状況が窺える。また、不満と回答した居住者は何らかの形で補修などが不十分な実態が窺えた。全般的には住宅そのものの改修の必要性が感じられた。

図4は改修をする必要があると感じている具体的な箇所をまとめたものである。久慈地区は多地区に比べ、全般的に希望件数が少なかった。理由は、沿岸地の季節風の影響が常に存在するため、定期的な補修作業が住宅それぞれに実現されているのではないかと推察される。

一方、川井地区での屋根、浴室、トイレ、窓などの希望がきわめて目立つ結果となった。川井地区は山間部にあり風雨による屋根、窓の補修が常に求められる気候的な特徴が認められるが、久慈地区に比べると5倍程度の需要があることが改めて確認できた。また、浴室、トイレもあまり整備されていないことも窺えたが、地形的な影響もあり下水道整備などのできにくい状況も配慮に入れる必要があると感じた。

西根、渋民は地理的に接近しており、補修に関する意識も近いものが見て取れる。全般的に両者は目立った差は認められないが、窓や玄関ドアなど開口部に対

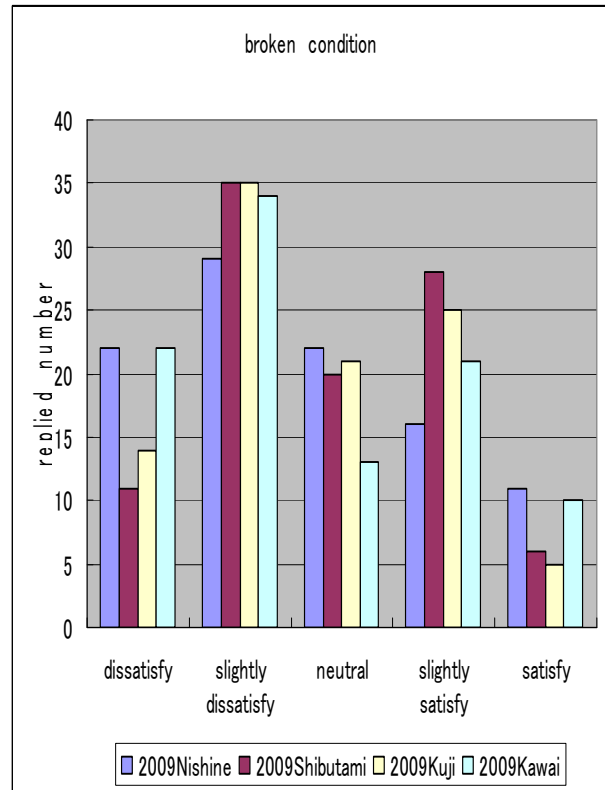


図4 現在補修を希望する箇所一覧

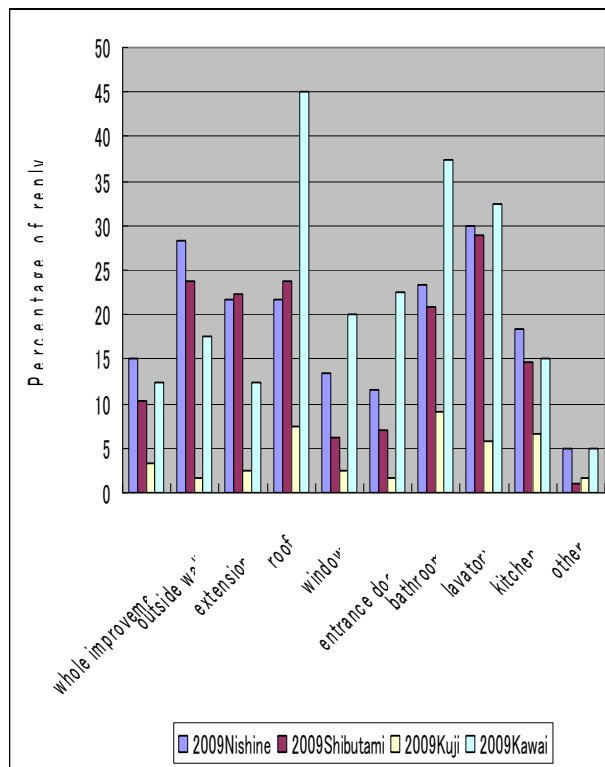


図3 壊れている箇所に対する意見

する要望が多かったのは西根地区であり、新興団地として同一時期に造成された渋民地区よりは建設年次の幅が存在することが窺えた。

さらに将来補修が必要とする箇所は図5のようになった。図5で久慈地区での回答数が多いことに注意したい。図4での希望箇所での回答数が他地区よりも少ない傾向にあったが、この図では全般に目立つ傾向にある。理由は現状では改修希望がないが、将来的にはこれだけの補修したい箇所があると解釈したい。

それとは別に地区ごとに目立つ部分を見ていくと、渋民地区でのトイレの補修希望が多い。図4でも希望が多かった箇所であるが、現在も将来も補修を必要とするほど、問題が存在していると解釈すべきであろう。また、西根地区では浴室の改修を将来望みたいという回答が多かった。これは現状の希望とほぼ同数であることから、問題の継続が感じられた。後述するが暖房器具とのかかわりで、浴室とトイレを暖房している例がほとんどないことから、冬季の抱える切実な問題と推察できる。



図 大きな規模の住宅も数多い (川井地区)

図6は住宅の間取りに対する意見、大きさ(広さ)への満足度を聞いた結果である。4地域とも「やや満足」「満足」の割合は高い。間取りや広さに関して不満足を示した地域は渋民地区であった。

理由はほぼ同一時期に新しい住宅団地として造成された地域であるため、住宅規模が中規模以下のものが多く、時間経過による家族の変化、高齢化などによる空間満足度が低下しているものと推察された。一般的に、北海道を除く寒地での住宅の延べ床面積の大きさは全国で数番目に大きい傾向にあり(住宅統計調査1983による)多雪の地域ほどこの傾向が強いが、住宅の満足度の高さの背景の裏づけになると考えられる。また、東北地方では3世代同居の例も見られることから、住宅の規模に対する生活上の常識も存在すると見られる。

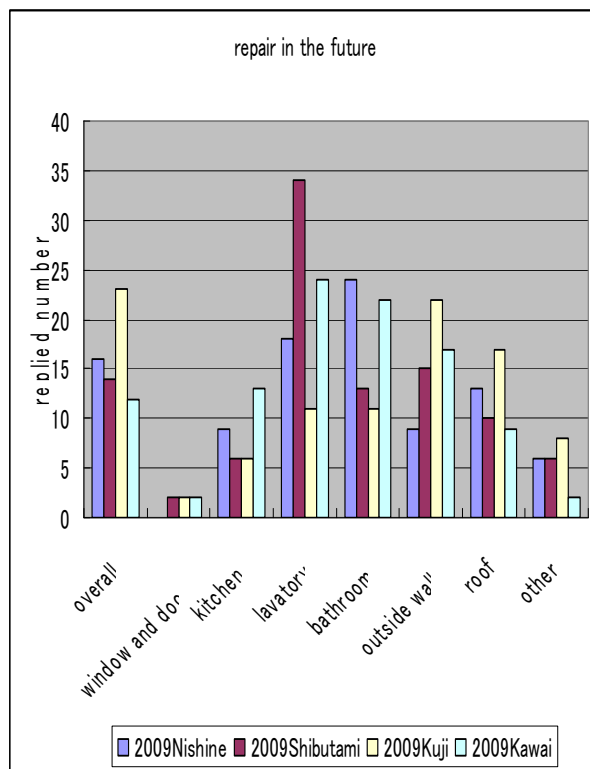


図5 将来補修したい箇所一覧

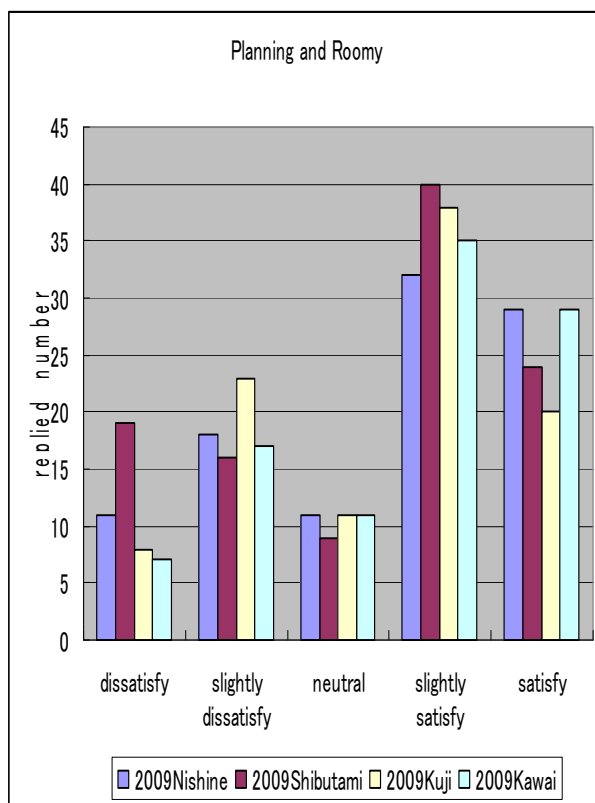


図6 住宅の間取り、広さに対する意見

図7は生活全般に対する満足度を聞いた結果である。やや満足の回答の割合が多い。とりわけ渋民地区での回答が目立つ結果となった。この点も渋民地区が50年前の新興住宅地であるため、当初の都市計画的配慮、

つまり鉄道駅や買い物や役所など生活に直接関わる都市施設の整備が十分になされているため、満足度が高くなっている要因と考えられる。

各地域とも不満足度の存在も目立つが、はじめに述べたように地域自体が高齢化しているため、高齢者を主体とする住宅では新たな都市整備を望んでいるのではないかと推察された。しかし、そのほか住宅内での結露、黴の問題点の指摘や道路、下水道の未整備への不満な点が見られたことから、住宅そのものの他に都市計画的な視点も必要である。

### 7. 冬季の諸問題

今回の調査では暖房機器についての聞き取り結果が興味深いものであった。図8は各地域における暖房方法をまとめたものである。地域により暖房方法の違いがあるものの、渋民地区、久慈地区では煙突無しいわゆるファンヒーターの使用、および炬燵の使用が目立つ。また同時に久慈地区では煙突付きの石油ストーブも目立つ結果となった。

一般に、居間など家族が多くの時間を過ごす場所には煙突付きのストーブを設置し、寝室や個室などではポータブルタイプのファンヒーターの利用している実態が窺えた。林業の盛んな川井地区では薪ストーブの利用が多いのは当然のことといえる。

50年前には暖房器具は薪ストーブが主流であり、木炭や練炭、石油などの併用形式がわずかに存在していた。また、囲炉裏、炬燵といった採暖形式が明確になっていた。これは同じ寒地である北海道における「居間中心型」の生活形式に酷似しており、暖をとる中心に家族が集う寒地ならではの生活パターンとして認められよう。



図9 ストーブ用の薪は住宅妻壁に積み上げられる (川井)

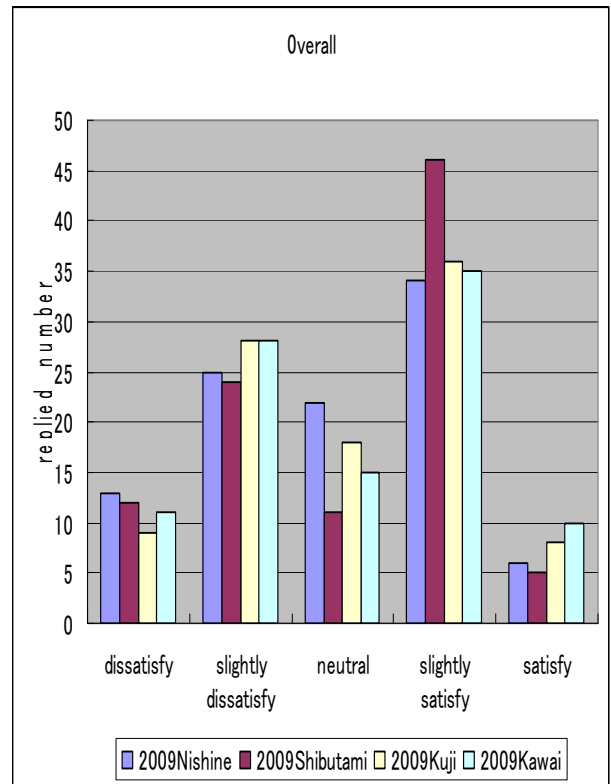


図7 生活全般に対する満足度

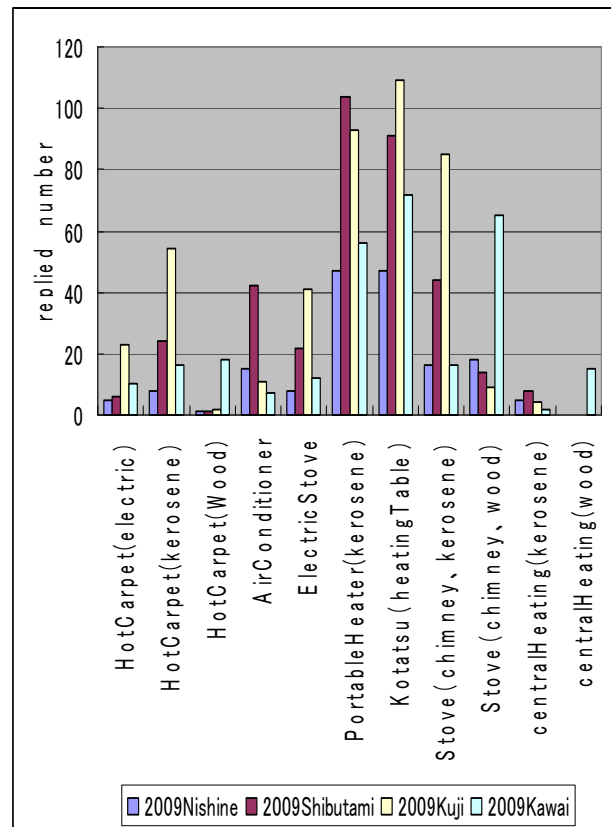


図8 暖房方法

一方、暖房が必要であるにもかかわらず、機器のない空間として、浴室、トイレ、寝室、居間とそれらを繋ぐ空間である廊下などは、アンケート調査のみなら

ず別稿で報告予定の実態調査においても明らかとなった。前述したように、改修の希望箇所の最初にあげられるのがトイレであり浴室であったことから、潜在的に冬の寒さに対するこれらの空間のあり方に対する不満が常に存在しているものと考えられる。これに関連したものとしては断熱不足による燃料費増大を指摘している回答もあった。

調査地域は東北地方の中でもそれほど降雪の多い地域ではないが、超高齢社会の中で冬季における暖房問題をはじめとする諸問題は、社会的には冬季の除雪と移動手段の確保が上げられるであろうし、個別の生活では住宅内の温度差の存在がある。特に後者はすぐには解決できる問題ではなく、住宅そのものの基本性能のリフォームを含めた整備と何より住民が寒地意識を持ち、それに見合った環境を求める意識改革も必要になるであろう。

## 8. 結論

50年前に生活文化の調査を実施した同一地域で、同様の調査を実施した。本報告では住に関するアンケート内容の一部をまとめた。その結果、調査地域すべてで50年前にはほとんどの住宅で外にあったトイレや共同利用の浴場であったものが、住居内に設置されており、生活内容が大きく変化している様子が伺えた。

また、住宅自体の改修も地域によって内容が変わり、気候やその地域の歴史が地域住民の意識にも影響を及ぼしていることが推測された。50年後の現在はある程度の改修がなされているが、依然としてトイレや浴室の改修をさらに望んでいる居住者が多いことから、便所や浴室の暖房の現状における不備が根底に横たわっているものと推察できた。さらに、はじめに述べたように、調査地域は日本国内では寒地に属する地域であるにもかかわらず住宅そのものが寒地向けのものではないため、冬の寒さに対する不満が多く、断熱や窓の更なる改修の希望が多いのは当然の結果といえる。今後、迎える超高齢化社会における住宅の役割の重要性を再認識し、住宅の温度バリアの解消をはじめとする環境改修を積極的に進める必要があることを痛切に感じた。

## 〔謝辞〕

今回のアンケート調査、実態調査に多くの時間を割いてくださりご協力いただいた各地域の皆様にご心より感謝申し上げます。

なお、本研究は岩手県立大学学部プロジェクト研究「現代型環境変化と地域における生活文化の変容に関する研究」(平成19年-平成21年度)の一環であることを付記し、研究遂行にあたり、ご支援をいただいたことに感謝いたします。

本稿は2010年9月に開催されたARSA2010(The

4th Asian Rural Sociology Association International Conference)において発表した内容を改変して研究報告としてまとめたものであることを最後に付記する。

## 〔参考文献〕

1. 岩手県立盛岡短期大学生生活科学研究部：生活調査報告第一号（岩手県岩手郡西根村中村部落），12.1959
2. 岩手県立盛岡短期大学生生活科学研究部：生活調査報告第二号（岩手県岩手郡玉山村渋民船田部落），2.1961
3. 岩手県立盛岡短期大学生生活科学研究部：生活調査報告第三号（岩手県下閉伊郡川井村小国地区），12.1961
4. 岩手県立盛岡短期大学生生活科学研究部：生活調査報告第四号（岩手県久慈市小袖部落），1.1963
5. 西根町教育委員会：西根町の古民家・浄屋、西根町、1986
6. 大向直三：小袖部落の近代史、杜陵印刷、1979
7. 竹内利美：東北農村の社会変動 新集団の生成と村落体制、東京大学出版会、1963
8. 北方圏住宅研究会：暮らしと住まい 北からの発信、北海道新聞社、1989
9. 新徳栄蔵：ストーブ博物館、北海道大学図書刊行会、1986
10. 佐々木隆、菅原正子、魚住恵、林基哉：岩手県における住宅の性能向上と省エネルギーに関する研究（その1～その6）、岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集、第2号、2000、第3号、2001
11. SASAKI,T. et al: The relationship between indoor climate and salt concentration in the soup、Proc.Int.Conf.Indoorair2002, Jul.2002
12. SASAKI,T. et al.: The Modern Environmental Changes and the Life and Culture Transformation in Northern Tohoku Region, Japan, Part 1 Outline and purpose of Research, Proc.Int.Conf.ARSA2010,Sept 2010
13. HONMA,Y. et al.: The Modern Environmental Changes and the Life and Culture Transformation in Northern Tohoku Region, Japan, Part 2 Residential evaluation, Proc.Int.Conf..ARSA2010,Sept 2010
14. KAWASAKI,M. et al: The Modern Environmental Changes and the Life and Culture Transformation in Northern Tohoku Region, Japan, Part 3 Changes in Life culture and industry for food and nutrition in the rural areas in Iwate Prefecture, Proc.Int.Conf.ARSA2010,Sept 2010
15. KUSABA,E. et al: The Modern Environmental Changes and the Life and Culture Transformation in Northern Tohoku Region, Japan, Part 4 Maintaining rural folk culture, Proc.Int.Conf.ARSA2010,Sept 2010